

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|--------------------|------------|
| 事業所番号 | 0270301542 | |
| 法人名 | 医療法人高人会 | |
| 事業所名 | グループホーム かえで | |
| 所在地 | 青森県八戸市大久保西ノ平25-294 | |
| 自己評価作成日 | 平成22年9月23日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.aokai.go.jp/youho_ip/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0270301542&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|---------------------------------------|--|
| 評価機関名 | 社団法人青森県老人福祉協会 | |
| 所在地 | 〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 | |
| 訪問調査日 | 平成22年10月17日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、入退院を繰り返したり、外来受診が必要な入居者様がほとんどであり、水分、食事への制限や体調管理の為に排泄管理が重要である。その為、スタッフは医療的知識を高めていくことが要求される。体調不良を訴えることも多く、日々の活動も状態を把握、観察しながら臨機応変な判断が必要とされる。その為、スタッフ間においての声かけは、現場の安全に欠かせず、認知症ケアだけでなく細やかなケアが行われている。また、体力がないことから、1日横になって過ごしてしまい、楽しみがなくならないよう、体力と体調を見極め行事が行われている。職員においては、向上心が強く、要件を満たした順に資格取り組みケアの質向上につなげていると判断している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

母体である内科医が併設され、緊急時には廊下伝いに行き来することができる。また、透析など医療ニーズの高い利用者が多く入居しており、職員は認知症ケアのみならず、健康状態の観察や急変時の対応等医療的な知識も高めるような研修や情報交換がされている。日々、利用者の状態は変わりやすくこまめな情報交換や共有が図られている。
また、利用者は食事や水分制限が多くあるが、職員は生活に楽しみを持てるよう、日帰り旅行や外食など思いを叶えられるような支援を行っている。体調にあわせ、出来ることはしていただきながら、意向に合わせ支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念を職員事務室に掲示して、毎朝申し送り後に職員間で唱和し確認をしている。また毎月のケア会議の中で、常に理念添ったケアをしているか、確認している。 | 理念は職員で考え、ホールに掲示し毎朝の申し送りで唱和している。地域密着型サービスの意義も理解しており、職員は基本となる理念を常に意識している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 東公民館での「布ぞうり作り教室」や「ガーデンニング教室」にスタッフが参加、講座の会員となり町内会の人たちと交流を図っている。また、婦人部主催の「救急法勉強会」にも参加している。 | 地域の敬老会や花見会、公民館での行事への参加を継続的に行っている。また、地域の方に編み物の指導やホームの行事のボランティアとして参加していただき、積極的な交流が図られている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2ヶ月に一度発行の機関紙の中で、「認知症の人の理解」や「認知症の人の接し方」などについて、シリーズで取り上げ、町内会の人たちに配布をしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームの行事、防災訓練、ボランティアの受入れ状況など会議においてありがたい意見や提案を出して頂き、それがサービス向上に役立っている。 | 運営推進会議では積極的な意見が多く、取り組みについての意見や協力を頂き、サービスの向上に繋がっている。また、市町村の担当者とも直接意見交換されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当者からの希望により、ホームの見学をして頂いたり、ホームの行事(夕涼み会)に参加して頂き、推進会議以外でも協力関係を築いて頂いている。 | 市の職員の見学や行事のボランティアとしての参加がある。また、運営に関することは直接、市町村の窓口で相談し協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は、行わないことで、職員間の認識が統一されている。 | 出入り口には、鈴など音のするものが取り付けられてあり、利用者の行動を止めることなく共に行動するなど、自由な暮らしを支えるよう心がけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 今年は、高齢者虐待防止の研修にはまだ参加していないが、今までの勉強会で、職員間の認識が統一されている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年、成年後見制度の研修にはまだ参加していないが、パンフレットも準備して勉強している。権利擁護を利用されている利用者様が5月で亡くなられた。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 説明文章をよんで頂ながら、利用者様やご家族等の不安、疑問点を尋ねている。その中で、不安になられたり疑問を持たれるご家族もいる為、十分な説明を行い同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に苦情箱が設置されている。苦情受付窓口担当者も配置しており、この担当者を通じて、実際に4月と7月に苦情と要望が出された。 | 家族からオムツの使用量や行事の日時について苦情や要望があった場合、時間をかけて誠意を持ち対応し、全職員に周知しながら今後のケアに反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月スタッフ会議を開催し、職員の提案や意見を吸い上げ、運営に反映させている。 | 職員から、「日帰り旅行」や「夢を叶えよう」など行事の提案がされ、計画・実行されている。また、日頃から、女性ならではの細かい気配りも業務に反映されるよう意見を吸い上げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員それぞれが、上の資格を目指しながら日々のケアに努力していることを把握している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 勤務経験年数に応じ資格取得ができるよう、院内研修等の参加もしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ときおり、近くのグループホームへおじゃまして、管理者と情報交換を行っている。また、行事の際に音響器機を貸して頂き、大変助けられている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前、また開始直後に何度か本人と面会を重ね、出来る限り不安のない状態で入居していただけるよう、本人の要望や不安をよく聴いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用前に何度か家族と面会を重ね、出来る限り不安のない状態で入居していただけるように、家族の要望や不安をよく聴いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本年度、2名の入所様あり。2名とも透析患者様ということもあり、相談を受けた際、ご本人やご家族の状況及び希望から当ホームが適切であると判断した。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | オセロなどのゲームやボール投げなどで、一緒に楽しんだりされている。また、食材を切ったり厨房にスタッフと一緒におかずを取りに行ったり、盛り付けをしたりと食事の準備もスタッフとされている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 夕涼み会やクリスマス会などの行事の際、スタッフやボランティアとご家族で昼食や夕食を作り、利用者様を含めてみんな一緒に食事をとり、楽しいひとときを過ごしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人が面会に来た時は、またきて頂きたい旨を話している。 | 元教師だった利用者の方には教え子の面会がある。また、「夢を叶えよう」をテーマに個別にお墓参りや馴染みの食堂、思い出の場所へ出かける機会を作り支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | かるた、ボール遊びなどで交流を図り、食事準備の手伝いやおやつ作りの手伝い、また洗濯たたみ等も共同で行い、楽しく過ごせる機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 同敷地内の病院に入院になった利用者様については、利用者様の状態を医療から聞きながら常に把握し、挨拶やねぎらいの言葉をかけながら話をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 理念でもある、ひとり一人の思いや願いが少しでも多く叶う事を目指し、食への希望や生活への意向をプランに揚げ、ケアを行っている。食事制限で希望が難しい場合は医療連携を図りながら対応している。 | 食事制限のある利用者が多いが、意向を確認しながら、医療と連携しラーメン・寿司など個別に食事を楽しめる機会を日常的に持っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者情報を作成し、スタッフ間で共有している。その後新たな情報があれば、利用者情報の修正を行い、申し送りノートやスタッフ会議で皆に伝え、確認しあっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎月のケア会議で確認をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成については、毎月の会議のなかで意見を出し合い、本人、家族の意向を大切にしながら、ケアに繋げている。 | 利用者や家族の意向を大事にし、毎月の会議で課題とケアのあり方について職員間で話し合い、介護計画を作成している。また、実施内容を記録し、モニタリング、評価に繋いでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録されている、変更や統一が必要なことに関しては、申し送りノートで共有を図り、ケア会議でも確認している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ホームへのご家族の宿泊、食事の提供をはじめ、医療の確認をとりながらご家族との自由な外出、外泊が行われている。同法人、入院中は廊下を渡りディサービスのよう日に日中ホームで過ごすこともある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 夕涼み会にボランティアとしてきていただいた水産高校の生徒さんに、利用者様の話相手になって頂き、大変喜ばれている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体が医療法人であり、渡り廊下でつながっていることから、常時相談、指示が仰げられる状態にある。また個別に受診が必要な科においては、家族に相談の上、受診同行を行なっている。(皮膚科など) | 透析の必要な利用者が多く、入居と同時に併設の内科医にかかりつけ医を変更し健康管理を行っている。また、内科以外の受診はかかりつけ医からの紹介で受診に繋いでいる。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 母体が医療法人であり、問題ないと判断。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 環境の変化等により、認知の進行や不穏状況が悪化する為、早期退院への働きかけを行なっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当、医療法人の理事長であり、病院院長の方針をご家族に話させていただき、医療と連携を取りながら、利用者様のケアにあたっている。 | 重度化や終末期には併設の内科医への入院の方針となっており、利用者・家族からは承諾を得ている。看取りの要望があれば、主治医・家族と共に検討し、対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 今年は普通救命講習会の受講者が2名、緊急マニュアルは作成されており、応急手当は行なっている。また、医療が併設の為、医師、看護師との早急な連携がはかられる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、消防署立会いのもとで、防災訓練を実施している。5月は町内会役員の方々に参加して頂き、役員の方々の緊急連絡網を活用した訓練を実施。訓練の報告は推進会議の議題に入れている。 | 町内の緊急連絡網があり夜間想定避難訓練を実施している。また、水害の際には自衛隊に働きかけ、配水車の協力も得られるようになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 理念に基づきひとり一人への尊重したケアを大切にす為、対応への振り返りを行いながら、より良いケアを目指している。 | 事業所発行の季刊誌は、家族と町内だけに配布とし事前に写真と名前を記載することを承諾いただいている。また、人生の先輩としてこれまでの経験や誇りを尊重した言葉かけがされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 医療と確認を取りながら、希望のメニュー・おやつを選択等、出来る限り自己決定できる場を作り、無理のないよう、さりげない声かけや促しをしている。そして、本人の希望により、お菓子やパンなどの買い物をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の状況に合わせ、出来る限り食事時間や食べる場所を利用者様の希望に合わせている。また、就寝時間も利用者様の希望に添って支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望に応じて、理美容を利用。ほとんどが、ホームに来てくださる床屋さんを希望し利用されているが、希望により、近所の理美容さんへスタッフとでかけ、利用している方もおられる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日曜日の昼など、出来る時は好みの献立希望を取り、出来る方は、一緒に食事準備を行なっている。ただし、食事制限のある方がほとんどの為、限られた範囲内で楽しむことが出来るように支援している。 | 腎臓食がほとんどであり、平日の昼・夕食は病院の厨房からの提供となっているが、日曜日などは季節感を味わえるような献立や手作りおやつで楽しめるよう支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事と水分の摂取量のチェックをして、記録及び申し送りを行なっている。そして、状況に応じ、かつ本人の意思を尊重しながら調整を行なっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後、自立を促しながら、口腔の清潔を日常的に支援している。そして、状況に応じかつ本人の意思を尊重しながら調整を行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | オープンタイプからリハビリパンツ、リハビリパンツから綿の下着へと改善していけるように、利用者様の状況をみながら、スタッフでケアをしている。また、改善されている方もある。 | 利用者一人ひとりの状態に合わせて、排泄のリズムを把握しながら、オムツから布パンツへ改善していけるような働きかけを行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事・水分制限のある方が多く、便秘への対応が重要な為、下剤調整、腹部マッサージ、歩行運動など日々の申し送りですっかり確認を行なっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 外来受診を受ける方が多い為、入浴日、時間はおおむね決められているが、希望にあわせて変更されている。 | 年に1回、日帰り旅行で温泉に出かけ普段とは違う入浴を楽しんでいる。また、透析日以外で入浴を予定し、時間は本人の意向に合わせて対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 家事の手伝いや歩行、ペダルこぎやボール遊びなどの運動で、日中の活動量を増やしている。昼夜逆転が見られた時は、無理をせず、夜は付き合い、日中十分な睡眠をとって頂くこともある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の薬情報が作成され、服薬確認が行なわれている。服薬に当たっての症状の変化も記録され、必要時は、医師の指示のもと調整が行なわれている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ひとり一人の役割がほとんど決まっており、積極的に活動されている。(おかず運び・盛り付け・食材切り・茶碗拭き・洗濯たたみ・カレンダーめくり・カーテン閉めなど) | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 体調をみて、天気の良い日は、散歩や買い物に同行して頂いている。体調が良ければ、町内行事にも参加して頂いている。また、気分転換にと外食の機会も作っている。 | 買い物に出られる利用者は少なくなったが、体調に合わせて日常的に散歩に出ている。町内の行事にも参加したり、意向に合わせて外食やドライブの機会を持っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理ができない利用者様でも、希望があれば、財布を所持していただいている。出かけられない人や出かけられない時は、スタッフがお金を預かり、希望の物を買ってきている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話はいつでも利用できる所に設置されている。(事務所の前) また、介助により、電話なども自由に行われている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 状況に応じてカーテンを引き、光の調整をしている。また、テレビやラジカセの音量、スタッフの歩く音などに対しては、不穩にならないよう注意することなどの話し合いをスタッフ会議でしている。 | 直接的な日当たりは、椅子を移動するなどし状況に合わせて対応している。音や話し声、温度や装飾など利用者が居心地よく過ごせるように意見を出し合い工夫されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子が廊下に数箇所配置され、自由に過ごせるように配置している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個々の生活用品が持ち込まれ、その方なりの空間ができている。(タンス・扇風機・ラジオ・ラジカセ・椅子など) | 利用者一人ひとり、使い慣れたラジオや椅子、筆筒が持ち込まれており、思い出の写真や作成したパズルなどの作品が装飾され、居心地のよい居室作りがされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下全域に手すりが設置され、洗面所は車椅子対応であり、キッチンと食堂はカウンターで仕切られ、利用者様と共同で活動しやすく作られている。また、風呂場は、車椅子の方など援助しやすいように広く作られている。 | | |